

# いもう 葦毛通信



ハンカイソウ

平成 28 年 6 月 13 日  
豊橋市文化財センター  
豊橋市松葉町 3 丁目 1  
TEL : 0532-56-6060

No. 38

## 1、平成 27 年度葦毛湿原の動物調査 - 1

昨年に引き続き、2016 年の 3 月末までの一年間、自動撮影カメラによる動物の定点観察を行いました。平成 27 年度は延べ 81 回の撮影ができました。平成 26 年度は 60 回でしたので、35%回数が増加しました。

### 1、調査方法

指定地南東部の林内で動物の通り道と思われる場所（昨年と同じ場所）に自動撮影カメラを設置し、24 時間自動で写真と動画撮影を行っています。実施期間は、前年から継続し、2016 年 3 月 31 日までのデータです。

撮影は、昼間はカラー、夜間はモノクロになっています。これは、夜間撮影時にカラー撮影するためには、フラッシュが必要になるので動物を驚かさないようにして、継続して調査をするためです。

### 2、調査結果

平成 27 年度は延べ 81 回撮影されました。内訳は表 1、図 1・2 の通りです。前年度の平成 26 年度（葦毛通信 No. 24～26）と比較して撮影回数は 35%増えましたが、全体の傾向としては異なった点も見られます。

まず、平成 26 年度は、9 月が 9 回で撮影回数のピークがあり、9～11 月が最も多い時期でした。平成 27 年度は 7 月の 14 回がピークで、前年よりも 1.5 倍になっており、6・7 月が最も多い時期

でした。前半は撮影回数が多かったので、このままいけば撮影回数が 100 回を超えそうだと予想していました。しかし、11 月以降撮影回数が減ってしまいました（表 1、図 2）。

これは、11 月から開始した V 地点の三の沢の伐採によって、設置したカメラ

番号	種名	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	ニホンイノシシ	34		1	3	8	6	6	6	1	1	1	1	
2	ニホンノウサギ	13	3	3	2	1			1	1		1	1	
3	ホンドタヌキ	7				1		1	2	2		1		
4	ホンドキツネ	2			1									1
5	ハクビシン	12	2		3	2		2	1	1		1		
6	ニホンイタチ	3			1		1			1				
7	ホンドテン	3			1	1	1							
8	ヤマガラ	1												1
9	コジュケイ	1		1										
10	ニホンリス	0												
11	ノネコ	3			2	1								
12	キジバト	1					1							
13	ニホンカモシカ	1								1				
	合計	81	5	5	13	14	9	9	10	7	1	4	2	2

表 1 種別撮影回数一覧表

の周辺が開けて明るくなり、動物の通り道が変化した可能性が考えられます。最初にカメラを設置したところは、暗い森の中でも下草が少なく、動物が通りやすい台地の端でした。予想通り一定数の動物が通り写真を撮影することができましたが、植生回復作業で大規模に周りの木を伐って、周りが明るくなり通りやすくなったので、通り道が変化したのだと思われます。

撮影された動物の種類で最も多いのは、ニホンイノシシで昨年とほぼ同じで34回も撮影されました。次がニホンノウサギの13回で、この2種類で全体の約60%になります。これ以外は、1～3回が多く少数です。全体の傾向としては前年とほぼ同じですが、異なっている点はハクビシンが3回から12回に、ホンドタヌキが3回から7回に増えました。これ以外の動物は1～3回で昨年とほぼ同じです。

昨年と違うところは、ノネコが3回撮影され、500m程離れた住宅地から進入してきたものと思われます。

### ニホンカモシカ

11月にはニホンカモシカが写っていました。これまでも、近隣の山中で目撃されており、葦毛湿原の指定地内でも数年前に糞を確認していましたが、今回初めて定点カメラに写りました。また、背後の山の中には糞が残されていました。ニホンカモシカは一か所にまとまって糞をするようで、ニホンジカは移動しながら糞をして撒き散らすようです。(以下、次号に続く。)

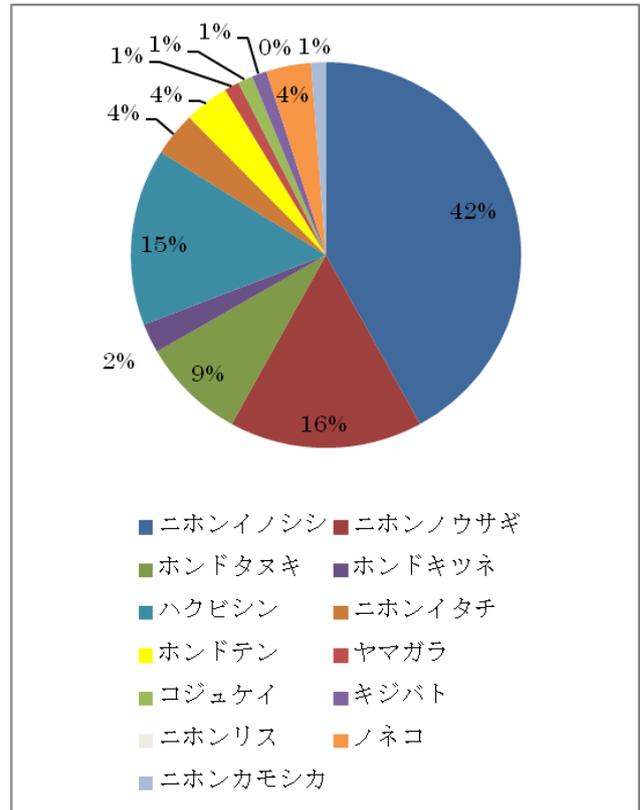


図1 種別撮影回数割合

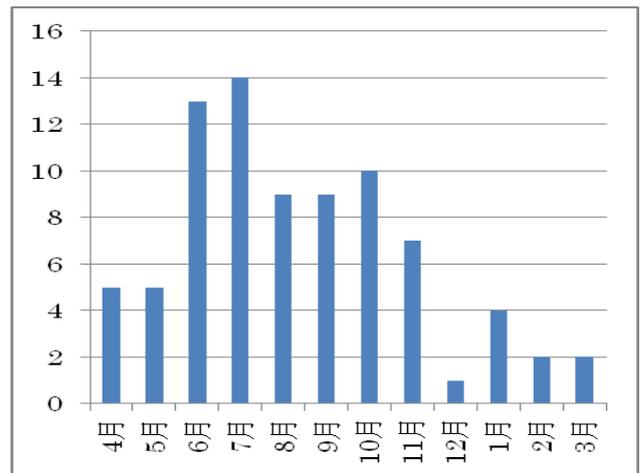


図2 月別撮影回数



ニホンカモシカ (11月19日撮影)



ニホンカモシカの糞 (11月27日撮影)

## 2、2016 モニタリング報告ー2

これまで4年に亘り、大規模植生回復作業を行ってきました。当初は手探りに近い状態でしたが、ようやく、各地点の経年変化についてある程度の見通しができるようになりました。そこで、代表的な地点や実験地が作業後どのような経過をたどっているのかを中間報告します。

### G地点

G地点は、平成25年度に木の伐採を行い（写真上）、平成26年度にバックホーで木の抜根やネザサ・コシダの根の層の除去を行いました（写真中）。

写真上（2014年）は、中央から右手の裸地の部分が木の伐採を行ったところです。手前の草のない部分はコシダ群落だったところで、地上部を除去しただけで、根は除去していません。1年間観察しましたが、地表面にはコシダの茎が残り、植物の発芽があまり見られませんでした。他の地点でも、コシダがあったところは地上部を除去しただけでは植物の発芽がほとんど見られませんでした。左側にはイヌノハナヒゲ群落がありますが、所々で礫が見えるようにまばらに発芽してきたところです。この部分は平成24年度に最初に木を伐って手作業で抜根して表土を剥いだ部分で、B地点になります。

写真中（2015年）は、バックホーにより木の根の抜根と、コシダの根の層の除去を行った後の状況です。手前の黒くなっている部分が抜根とコシダの根の層を除去したところで、地表面に水の流れが復元され、イ



（2014年5月22日撮影：木の伐採・除草のみ）



（2015年6月20日撮影：抜根後1年目）



（2016年6月8日撮影：抜根後2年目）

ヌノハナヒゲ、シラタマホシクサ等が少しずつ復活しているところです。中央左側はB地点でイヌノハナヒゲが増えて全体がイヌノハナヒゲ群落になっています。

写真下（2016年）は、現在の状況で、かなり植物が復活しているのが分かります。抜根直後に土が目立っていたところには、イヌノハナヒゲを中心にシラタマホシクサ、ヌマガヤが混じる群落になっています。この他にはトウカイコモウセンゴケ等が見られます。写真中央部分にもイヌノハナヒゲを中心とした群落が広がっています。水分の多い所には、シラタマホシクサが帯状に伸びています。抜根とコシダの根の層を除去した1年目は、全体に礫が目立つ状態で、まばらに植物が出てきてきましたが、2年目には、礫があまり見えなくなり、全体に植物が増えていることが分かります。来年にはさらに増えて、礫がほとんど見えなくなると予想しています。

左側のやや背が高く緑色が濃い部分はヌマガヤ群落で、植生回復作業以前からヌマガヤ群落だったところです。つまり、林縁部に接して湿地内部はヌマガヤが優勢でしたが、林縁部の木を伐って表土を除去したところ、まず、イヌノハナヒゲが現れ、2年目に増えて、3年目には礫が見えなくなるほど一面イヌノハナヒゲ群落になりました。これにシラタマホシクサが一部で増えているという状態です。今後どうなるかは観察を続けますが、イヌノハナヒゲがヌマガヤ群落に侵出しているようには見えません。ヌマガヤはある程度土が堆積したところで優勢になっているので、今後イヌノハナヒゲ群落のあるところに遷移が進んで土が溜まることにより、ヌマガヤ群落に変化していく可能性も考えられます。

このような変化は、他の地点でも見られます。大規模植生回復作業を始めた2013年1月に、一番最初に作業を始めたD・E地点は、小面積でしたが手作業で木の根の抜根をし、表土を剥ぎました。直後の1年目は礫が目立つ裸地になり、水の流れが見えるようになりました。イヌノハナヒゲ、シラタマホシクサ、ヤチカワズスゲ等がまばらに出現し、2年目に植物の数が増え、3年目には地表面の礫が見えなくなるほど植物が復活しました。4年目の今年も、同じような状態で、水の流れもよく見えないような状態です。

### 3、ヒメヒカゲ(愛知県絶滅危惧ⅠA類、愛知県指定希少野生動植物種)

5月5日にヒメヒカゲ(愛知県指定希少野生動植物種、愛知県絶滅危惧ⅠA類)の終令(5令)幼虫を確認していましたが、5月25日に今年初めての成虫の羽化を確認しました。6月に入って徐々に数が増えてきました。

右写真の右側は、ヌマガヤの先端を食べていた幼虫が向きを変えて下に向かっていているところ、左側は頭を上にしてじっとして休んでいるところです。右側のヌマガヤの先端は斜めに食べられており、これがヒメヒカゲの食痕の特長です。



ヒメヒカゲ終令(5令)幼虫(5月5日撮影)

成虫の発生は例年6月中旬がピークになります。今年も多くの成虫が羽化することを期待しています。